



#### 4. 6/26 地域懇談会が開催されました

#### 特集 地域懇談会！

地域でボランティア活動している連合町内会、地区社協、青少年指導員やスポーツ推進委員等の各役員さん、民生委員・児童委員さん、消防団、都筑区役所福祉保健課、新栄地域ケアプラザ、都筑区社協など、多くの方々が集まって横の連絡を取る場としての地域懇談会、一年に一回テーマを決めて話し合っています。

(この会議は事前にお申込みいただければ、どなたにでも開かれた会議です。来年6月、是非ご参加ください)  
この2年間コロナ禍の影響で閉塞感が広がっていますが、地域でどんな活動をしていきたいのか？、また、どんなかたちであれば活動をしていけるのか？ コロナ時代になったからこそ、仕事リモート参加という形が促進されたように…、皆さんのお智恵を持ち寄って、住みやすい町新栄早淵をを広げましょう！

当日の様子



都筑区長も参加 ⇒  
区役所・区社協・  
ケアプラザからも  
応援多数



#### Aグループ・・・新栄町

- 具体案
  - ・要介護者情報をボランティアで共有
  - ・ボランティア活動の優先順位を決めていく。
  - ・近所付き合いを大切に日頃からの関係づくり(防災パトロールで声かけ、登下校時の声かけ)
  - ・ボランティア間の連絡体制を作っていく
  - ・町内会の各班長を毎年ボランティア登録
  - ・SNS やHP を利用した発信(子どもの情報発信はボボラHPを利用)
  - ・複数の連絡手段の確保(例えばアマチュア無線連絡)
  - ・ボランティアもまずは自分と家族や周囲の安全確認
  - ・ボランティアが集うためのアプローチ(声かけ方法)
  - ・茶話会、サロンなどでも声かけしてみる
  - ・ボランティア内容のハードルを下げ本人の得意なことをボランティアで活かして貰う
  - ・ペットを飼っている家庭が多いので、ペットつながりでボランティアの募集
- 課題
  - ・ボランティアに関する研修の実施
  - ・支えあいカード未提出の方に「信じられない」と言われた ⇒ 個人情報の管理や日頃からの関係作りの強化がなにより必要

#### Bグループ 早淵1丁目

- 具体案
  - ・TEL 1本かけるだけなど簡単な事から
  - ・防犯パトロール活動から町内の危険箇所を把握、不良箇所の削除を話し合う、行政も含めて修正に努める
  - ・ボランティア同士が知り合う事が大事、要交流機会
  - ・小中高生参加の企画で、地域を好きになってほしい、部活単位の関わりとかできないか？
  - ・見守りとプライバシーのバランスも大切
  - ・ボランティアが災害時要援護者の把握共有をする
  - ・具体的な動き方、町内での組織的な体制作り
  - ・全国から支援者が来るため、リーダーが必要。地域の役職=リーダーとして地域に知ってほしい
  - ・他地区の事例が知りたい(新聞のバイク隊と連携している地区もある)
  - ・全員ボランティア保険に加入している認識共有
  - ・緑道を活用して種まき(土OK)など声掛けの機会
  - ・ボランティアにも少しプレゼントがあるとよい
- 課題
  - ・活動に興味を持つ人の発掘が難しい
  - ・周りの理解がないと辛い・同じ人が担っている
  - ・忙しい年代にも地域を意識してほしい
  - ・繋がりがあると楽しくなり自分の街が大切になる

グループ発表のボード



今回のテーマは災害時ボランティア

『災害時ボランティアについて、活発な意見が飛び交う大変有意義なグループワークでした』

新栄早淵地区社協会長 赤根勝史



「災害時ボランティアって何をやるのだろう?」「ボランティアってたいへんそう!」

このように思っている方がほとんどだと思います。

実は新栄早淵地区の災害時ボランティアには、活動の決まり・ルールやマニュアルなどは存在していないのが実情です。あくまでも、災害時に自主的に助け合うことを基本にしているのですが、これでは、ボランティア登録者も、災害時に何をどうしたら良いのかわかりません。しかし、ルールづくりといっても、何から始めてどのような内容にすれば良いのか分からないというのが本音でした。

「だったら、地域懇談会で多くの方に災害時ボランティアについて、ざっくばらんに意見を出して貰おう!」と考え、グループワークを企画。でも、あまり多くの意見は出ないかも知れないとの心配もありました。しかし、グループワークが始まると、予想を大きく上回る勢いで活発な意見が飛び交っているではありませんか! 60分のグループワーク時間では足りないと思うほど、様々な意見やアイデアが次々と出てくる結果となり、大変に有意義で貴重な機会となりました。

多くの方は、平時に災害時ボランティアについて考えることはまずないと思いますが、実は心の中では、有事における行動への不安が多く、助け合いが不可欠であると感じていることがよく分かりました。今回、それが具体的に表面化できたことで、いざという時にしっかりと行動できるように、日頃の準備や意識付けの大切さを感じた方も多かったようです。

今回の多くの意見やアイデアを元に、新栄早淵地区社協では、できることから地道に取り組んでいきたいと考えています。災害時ボランティアは決して特別な活動ではありません。有事に隣近所の安否を確認するだけでも良いので、どうか気負わずに災害時ボランティアに登録して頂きたいと思います。よろしくお願いします。

#### Cグループ・・・早淵2丁目 + パークヒルズ

- 具体案
  - ・ボランティアが集まる基準決め(例えば震度5強の時〇〇自治会館へ) ※まずは家族の身の安全確保
  - ・有事の時の行動のマニュアル化が必要、意識強化
  - ・助けてもらう側の意識づけも、住民全体の意識大事
  - ・「助けて」「困っています」「無事です」通知訓練
  - ・避難訓練だけでも十分意義がある(1年に1回以上必要、訓練を地域ぐるみでやっていたら知らない人も見て知る契機に)
  - ・訓練時、ボランティア登録を促す
- 課題
  - ＜学校関係や若い人の力の活用＞
    - ・学校の繋がりにボランティア活動を発展→早淵中学・新栄高校との連携
    - ・中学生は昼夜とも地元にいることが多いので大きな力になる→親の許可・了解が必要
    - ・倒壊家屋の除去など力仕事には若い力を
    - ・ボランティア登録者のLINEグループを作る→若いボランティアの発掘につながる
    - ・ボランティア登録受付用紙の作り直し、ハードルを下げ、歩いて1~2分の範囲での活動だとやりやすい
    - ・大変そうな地域に災害ボランティアさんが手伝いに行くとい
    - ・専門職ボランティアと気軽にできるボランティアの2つの組織があっても良い

#### Dグループ・・・早淵3丁目

- 具体案
  - ・要援護者の安否確認、お年寄り世帯、隣人への声掛け、班別の要援護者把握し、ボランティアの確認と災害時の救出
  - ・ITにうとく情報取得ができない高齢者への対応
  - ・災害時の集会所の提供を考える・周辺道路の確認
  - ・消防団として火災予防、初期消火
  - ・支えあい活動の確認と災害時ボラの地域への周知
  - ・子ども達へのケア、見守り、遊び相手
  - ・生活必需品など物資を届ける
- 課題
  - ・防災訓練避難訓練の実施・三丁目独自活動
  - ・コロナ禍での対面および文書での集約と報告方法
  - ・福祉避難所の情報と連携し拠点からの距離で移動方法を考える
  - ・ボランティアへの研修を行う
  - ・要援護者の把握と福祉保健センターへの情報提供
  - ・避難場所への誘導方法、安全な場所の確認
  - ・近所にどんな人が住んでいるかを知る
  - ・ペット防災の会中心に啓発、拠点で同行避難訓練
  - ・子どもたちに魅力のあるイベントで啓発
  - ・ラジオ体操など既存事業と組み合わせ
  - ・若い人に防災拠点の運営や消防団、福祉避難所に関わって貰いたい⇒要人材育成、まとめ役・調整役